

3月2日④ ▶ 3月24日⑤

### 第77回 姫路市美術展

●会場：姫路市立美術館企画展示室 ●休館日：月曜日 ●料金：無料

1946（昭和21）年、第1回展が開催されて以来、本展は兵庫県内で最も古い公募展として今日まで続いてきました。15歳以上であれば国籍、居住地を問わず、どなたでも応募できる開かれた展覧会です。応募作品から入選・入賞作品を公開します。審査員による公開講評会も開催します。



### 市役所ロビー展示（姫路市役所1階）

### 姫路市美術展優秀作品

●休館日：本庁閉所日 ●料金：無料

1 4月3日⑤ ▶ 8月4日⑤ 2 8月7日⑤ ▶ 12月1日⑤ 3 12月4日⑤ ▶ 3月29日⑤

### オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト All Himeji Arts & Life Project

アートはライフ（命・一生・くらし）に溶け込んでこそ真価を発揮します。姫路市立美術館は、アートのプラットフォームとして、海・島・山・森林・田園、ひめじ全域が擁する地域文化をアートの力で市民ライフの糧として再発見するとともに、新たな姫路の魅力を国内外に発信するアートプロジェクトを推進します。このプロジェクトにより、姫路の二大文化資源である姫路城と圓教寺をつなぎ、有形・無形の文化資源の現代的価値を創出・発信する文化クラスターを形成していきます。2023年度はチームラボの展覧会と“霧のアーティスト”中谷美二子氏の庭園アートプロジェクト（2024年度までの3か年事業）を開催します。



姫路城



書寫山圓教寺

### 2023 年度友の会会員募集中

- 年会費：普通会員3,000円 学生会員1,500円
  - 常設展・企画展の無料観覧
  - 美術鑑賞旅行など友の会イベントのご案内
  - 美術館内喫茶の割引利用など
- お問い合わせは 友の会事務局へ TEL 079-222-2288

## INFORMATION [ご利用案内]

### 開館時間

午前10時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

下記の日は夜8時まで美術館前庭を開場します。

9月15日⑤～11月4日⑤期間中の金・土曜日

### 休館日

毎週月曜日（祝日・休日の場合を除く）

7月18日⑤、9月19日⑤、10月10日⑤、12月28日⑤～1月3日⑤、

1月9日⑤、2月13日⑤

### 休館のお知らせ

メンテナンスのため、2024年1月29日から2月9日まで休館予定です。

前庭は開園予定です。（月曜日は除く）

そのほか、メンテナンスのために臨時休館する場合があります。

### 交通

#### 【姫路市立美術館】

鉄道（姫路駅まで）

JR新幹線…新大阪から約30分、岡山から約20分

JR在来線…大阪から在来線（新快速）で約1時間、JR三ノ宮から約40分、岡山から約1時間25分

山陽電車…大阪梅田から約1時間30分、神戸三宮から約1時間

姫路駅から

徒歩約20分

神姫バス⑦または⑩乗り場から乗車約8分、「姫山公園南・国立姫路医療センター・美術館前」停留所下車すぐ

車（姫路城を目標にご来館下さい）

中国自動車道 福崎I.C.より播但連絡自動車道で姫路ランプ下車約15分

山陽自動車道 姫路東I.C.あるいは姫路西I.C.下車約15分

阪神高速・姫路バイパス中地ランプ下車約15分

\*美術館に駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

#### 【「チームラボ 圓教寺 認知上の存在」会場】

書寫山圓教寺へのアクセスは「姫路駅」より神姫バス⑩乗り場から乗車約30分「書寫山ロープウェイ」下車、ロープウェイで約4分（山上駅から徒歩約20分）  
<http://www.shosha.or.jp/>



## 姫路市立美術館

Himeji City Museum of Art

〒670-0012兵庫県姫路市本町 68-25

TEL 079-222-2288 <https://www.city.himeji.lg.jp/art/>



## Himeji City Museum of Art

# EXHIBITION SCHEDULE 2023-2024



コンスタンティン・ブランクーシ（ミューズ）  
1917年石膏原型（1986年鋳造）

### 開館40周年

姫路城世界遺産登録30周年記念

## 姫路市立美術館 展覧会のご案内

## Kunitomi Keizo Collection Gallery [常設展示]



クロード・モネ  
《ル・ブティ=ジュヌヴィリエにて、日の入り》  
1874年

### 通年（休館中を除く）

#### 國富奎三コレクション

### 近代フランス絵画 モネからマチスまで

フランス近代絵画を中心とする50点のコレクション。写実主義のコロー、クールベから印象派のモネ、ピサロを経て、20世紀絵画に大きな足跡を残したマチスまで、19世紀から20世紀にかけてのフランス絵画を常時30点展示しています。

●料金：一般210（160）円/大高150（120）円/中小100（80）円  
\*（ ）内は20人以上の団体料金

## CALENDAR [美術館カレンダー]

4	5	6
2023		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
7	8	9
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10	11	12
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
1	2	3
2024		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

庭園アートプロジェクト 5月3日(水)祝 ▶ 11月26日(日)



「平井優子 ダンス×中谷芙二子《白鷺が飛ぶ》霧の彫刻 #47769 -Yohaku (余白) -」  
2023年3月12日 パフォーマンス風景 © Fujiko Nakaya © Yuko Hirai

中谷芙二子 霧の彫刻—風景を聴く—

「アート制作の可能性を再定義し、ビジュアルアートを生まれ変わらせた」として2023年、ウルフ賞受賞者にも選ばれた現代美術家・中谷芙二子は、長いキャリアのなかで1970年以降現在に至るまでの50年余り、「霧の彫刻」を手掛けてきました。2022年度から3か年計画で当館では庭園アートプロジェクトとして中谷芙二子の「霧の彫刻」三部作の制作に取り組んでいます。初年度は「身体との対話」をテーマとして作品《白鷺が飛ぶ》が誕生しました。今年度は「風景を聴く」をテーマに新たな時空が創出されます。



中谷芙二子氏  
photo by Laura Miglone

- 休場日：月曜日(祝日・休日の場合は開場し翌平日休場)
- 料金：無料

Special Exhibition [企画展示] ★( )内は20人以上の団体料金



コンスタン・モンタルド《寓意的な情景》1907-08年 池田達郎《白鷺城を想う》昭和23年(1948年)

前期：4月22日(土) ▶ 5月14日(日) 後期：5月16日(火) ▶ 6月18日(日)

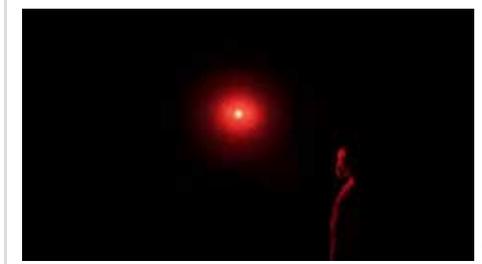
開館40周年記念コレクション展

春の祭典—生きる力を生み出す大地—

姫路市立美術館は昭和58年(1983)4月に開館し、令和5年(2023)に開館40周年を迎えます。「郷土ゆかりの美術家の優れた作品及び郷土の歴史・風物等に関する美術作品」「日本の近現代美術」「ベルギーなど海外の近現代美術」という3つの方針に基づく調査研究の集積から成るコレクションは、現在、所蔵作家251人を数えます。姫路ゆかりの美術工芸から同時代の美の動向を表すデザインや現代美術まで、近現代美術を中心に幅広いジャンルを網羅するコレクションは、それぞれの時代を生きた人々の尊厳の表れであり、今を生きる私たちに託された遺産です。革新性によってジャンルを横断して20世紀美術に影響を与えたバレエ音楽「春の祭典」に激動の時代を生きるヒントを求め、「伝統」「革新」「郷愁」「リズム」の4章構成で、全所蔵作家の作品を展覧します。

- 休館日：月曜日(ただし7/18は開館)、7/19(※)
- 料金：一般700(500)円/大高400(200)円/中小200(100)円

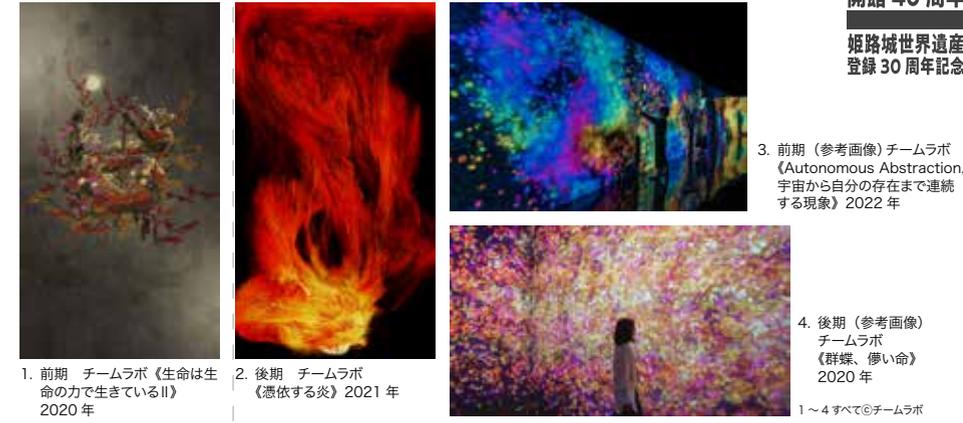
チームラボ 圓教寺 認知上の存在  
4月29日(土)祝 ▶ 12月3日(日)



1. チームラボ《我々の中にある火花》2022年 ©チームラボ  
2. 三之堂 食堂 ©書寫山圓教寺

国際的なアートコレクティブであるチームラボが、平安から一千余年の歴史を通じて人々の祈りの場として親しまれている名刹・書寫山圓教寺でインスタレーションを展示。会場となるのは、修行僧の学寮である三之堂・食堂(じきどう)(国指定重要文化財)。この類まれな場で創出されるチームラボのアートをご体感ください。

- 無休
- 料金：一般500円/大高200円/中小100円
- \*別途、圓教寺拝観志納金が必要です。



1. 前期 チームラボ《生命は生命の力で生きているII》2020年  
2. 後期 チームラボ《憑依する炎》2021年  
3. 前期(参考画像)チームラボ《Autonomous Abstraction》宇宙から自分の存在まで連続する現象》2022年  
4. 後期(参考画像)チームラボ《群蝶、儚い命》2020年  
1~4すべて©チームラボ

前期：7月22日(土) ▶ 10月9日(月)祝 後期：10月21日(土) ▶ 1月21日(日)

チームラボ 無限の連続の中の存在

作品空間の内部と外部、作品と作品、自己と他者、あらゆる境界が取り払われたチームラボ独自の映像インスタレーションのなかで、鑑賞者は自由に動きまわり、類まれな没入感を味わい、作品世界との一体感を体験します。チームラボが一貫して追求する「超主観空間」の創造は、鑑賞者が、自身の肉体がある現実空間と作品空間の時空が連続していることを体感することによって得られる新しい世界認識の創出を意味しています。近年、チームラボの探求はさらに深化を遂げ、「生命とは何か」というテーマの下、「私」という存在は、心と体とそれらと連続する環境によって創られている」という考えを表す新作を次々発表しています。生物と無生物との境界をも超える認識へと鑑賞者を導くチームラボのアートの現在地点を、前期・後期の展示替えを通して長大なスケールで展開します。

- 休館日：月曜日(ただし9/18、10/9、1/8は開館)、9/19(※)、12/28(※)~1/3(※)、1/9(※)
- 料金：一般1,500(1,300)円/大高1,100(900)円/中小700(500)円 \*会期は変更の可能性があります。

春の祭典—生きる力を生み出す大地—

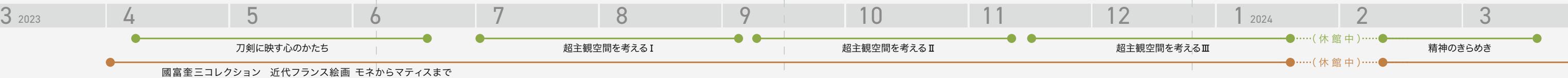
チームラボ 無限の連続の中の存在 前期

チームラボ 無限の連続の中の存在 後期

第77回 姫路市美術展

庭園アートプロジェクト 中谷芙二子 霧の彫刻—風景を聴く—

チームラボ 圓教寺 認知上の存在



Collection Gallery [所蔵品展示] ●料金：無料

4月8日(土) ▶ 6月25日(日)

刀剣に映す心のかたち—刀身彫刻と神宝—

刀剣は武器、美術品として人々の生活の中にあっただけでなく、邪をはらい、加護をもたらす神器として、古くから日本文化に根付いてきました。本展では、神仏を主題とする刀身彫刻と、姫路市の神社に伝えられた奉納刀の2つの切り口から、信仰や神仏とのつながりを今に示す所蔵作品9口を紹介します。



《刀 銘 寛文十三癸丑年正月吉日播磨国衛庄金重作 / 敬具群邪 姫路侍従源直矩》  
寛文13年(1673年)射備兵主神社蔵(姫路市立美術館寄託)

超主観空間を考える

チームラボが提唱する「超主観空間」から、当館は「遠近法の多様性」「江戸琳派的なもの」「自他の境界」などのテーマを導き出し、館蔵品の再検証を試みます。チームラボは、近代以前の東アジアの古典絵画の空間の捉え方を再評価し、作品空間と鑑賞者の身体がある空間との境界が生まれにくい論理構造を独自に分析して「超主観空間」と名付け、その原理に基づいて作品を生み出しています。ルネサンス期の遠近法に象徴される主体と客体を区分して世界を捉えようとする西洋近代主義を超えて、ボーダレスな新しい世界観を私たちに提示するチームラボに触発されつつ、異なるルーツをもつ古今東西の館蔵品を巡り、伝統的な日本の美意識を探索します。

I 7月1日(土) ▶ 9月3日(日) II 9月5日(火) ▶ 11月12日(日) III 11月14日(火) ▶ 1月21日(日)



松岡映丘《宇治の宮の姫君たち》大正元年(1912年)

酒井抱一《構図》  
江戸時代後期(18-19世紀)

2月10日(土) ▶ 3月26日(日)

精神のきらめき—西洋美術を中心に—

「あなたが魚を眺めるとき、あなたはそのウロコに注意はしない。(略)水面下のその動き、その遊泳、その肉体のきらめきを考える…そうです。(略)私がとらえたいのはその精神のきらめきなのです。」——これは抽象彫刻の先駆者ブランクーシの言葉です。対象とする「もの」と対峙し、その本質=「精神のきらめき」を「かたち」として生み出した巨匠たちの作品を紹介します。



パブロ・ピカソ《貧しき食事》1904-13年  
©2023 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)